

○ピバレフリン点眼液 [外]

【重要度】 【一般製剤名】ジピベフリン塩酸塩 (U) dipivefrine hydrochloride 【分類】解放隅角緑内障・高眼圧症治療点眼剤

【単位】○5mL/本 [0.1%], ▼0.04%

【用法】用時、添付溶剤に溶解し、1回1滴、1日1~2回点眼

【透析患者への投与方法】減量の必要なし (1)

【保存期腎不全患者への投与方法】減量の必要なし (1)

【特徴】エピネフリンのプロドラッグであるジピベフリンの塩酸塩を主成分とする点眼液。房水産生を抑制 ($\alpha 2$ 刺激) し房水の流出を増大 ($\beta 2$ 刺激) によって眼圧低下。ピロカルピンまたは β -遮断薬と併用することによって、より強い眼圧降下が期待でき、縮瞳や調節痙攣のためピロカルピンが使用できない患者に対しても良好なコンプライアンスを得ることができる。開放隅角緑内障、高眼圧症に適用。

【主な副作用・毒性】結膜充血、眼刺激感、霧視、眼痛、頭痛、結膜色素沈着、過敏症、発汗、振せん

【モニターすべき項目】眼底検査、視力検査、眼圧測定

【代謝】代謝物はメタネフリン、アドレナリンで、生体内ではアドレナリンと同一の代謝経路をとると推定 [ウサギ] (1)

【排泄】尿中回収率 65% [ウサギ] (1)

【MW】387.90

【透析性】資料なし (1)

【O/W 係数】90.8 [1-オクタノール水系, pH7.0] (1) 【pKa】9.29 (1)

【効果発現時間】約 30min

【最大効果発現時間】約 1hr

【備考】ミケラン点眼と併用する場合にはピバレフリンを先に点眼する。点眼間隔は 5 分でよいという説と 1 時間以上の間隔を開けたほうがよいという説がある。溶解後は 1 か月以内に使用 (1)

【更新日】20121010

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。